京田辺市埋蔵文化財調査報告書　第32集

京都府京田辺市

江津ほ場整備計画地内試掘調査概報

2001

京田辺市教育委員会

序

本市東南部の江津地区において、大規模なほ場整備事業が計画されていますが、この区域には宮ノ下遺跡などの遺跡が存在しています。

そこで、ほ場整備事業と埋蔵文化財との円滑な調整をはかるため、事前に遺跡の試掘調査を行い、遺跡の範囲や性格などを把握する必要がありました。

調査を実施した多くの場所では、木津川によるものと考えられる砂の堆積や沼地だったと考えられる粘土層がみられました。

最後になりましたが、今回の調査にあたりましては、土地所有者の方々、関係機関をはじめ多くの方々のご協力、ご指導をいただきましたことをお礼申しあげるとともに、今後とも埋蔵文化財に対しご理解賜りますようお願い申しあげます。

平成13年３月

京田辺市教育委員会

教育長　村田新之昇

例　　言

1　本書は、平成12年度に京田辺市教育委員会が国庫補助事業として行った江津（えっつ）地区ほ場整備計画地内試掘調査の概要報告である。

2　現地調査は平成13年２月13日に開始し平成13年３月15日に終了した。

3　調査の組織は次のとおりである。

調 査 主 体……京田辺市教育委員会

調査責任者……京田辺市教育委員会　教育長　村田新之昇

調 査 指 導……京都府教育委員会・京田辺市文化財保護委員会

調査担当者……京田辺市教育委員会　社会教育課　鷹野一太郎

同　　上　　五百磐顕一

調査事務局……京田辺市教育委員会　社会教育課（課長　奥西安己）

調査参加者……嵯峨山俊道・原クニ江・岡百合

作 業 委 託……全京都建設協同組合

4　調査を実施するについて、京田辺市経済環境部農業土木課・江津ほ場整備推進委員会には多大のご協力を賜った。記して感謝します。

5　調査期間中及び本書を作成するにあたり次の方々からご教示を得た。記して感謝の意とします。（順不同・敬称略）

磯野浩光・奈良康正・伊野近富・村川俊明

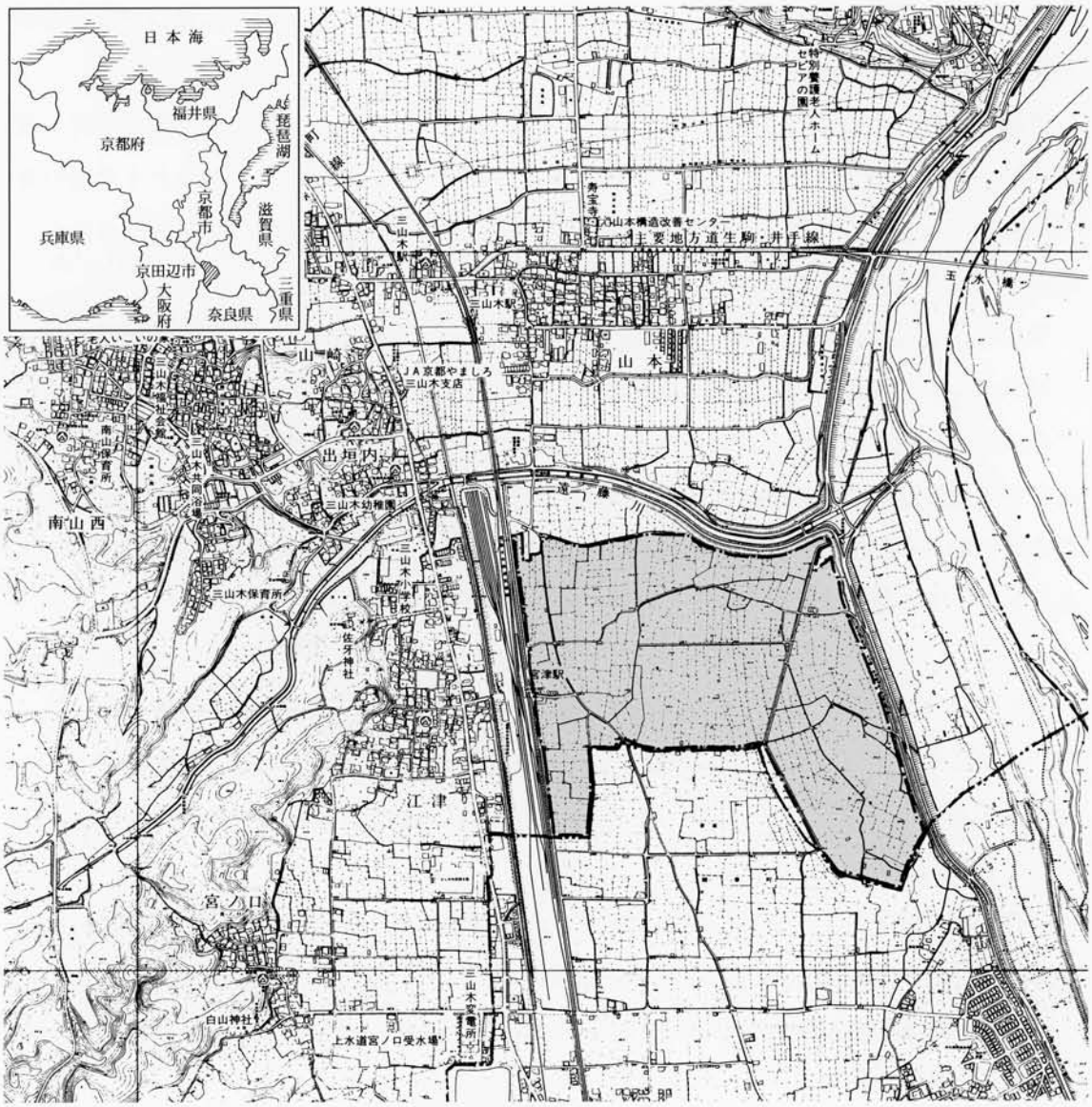
6　本書の執筆・編集は、鷹野・五百磐が行った。

1．はじめに

京田辺市宮津において、市営ほ場整備事業が計画され、同地区内に所在する宮ノ下遺跡・桑町遺跡・下川原遺跡・元屋敷遺跡について、ほ場整備事業と遺跡保存との調整をはかるための資料を得ることが必要となった。

そこで京田辺市教育委員会では、担当課である農業土木課と協議の一方、京都府教育委員会と協議し、ほ場整備事業計画地内の遺跡について、範囲及び状況等の確認、遺跡保存の為の基礎資料作成のため、計画地全域（約36.5ha）を対象とした発掘調査を実施することとした。

なお、土地所有者の方々をはじめ、関係者の方々、寒中強風のなか作業に従事された皆さん、その他多くの方々の協力によって今回の調査が行われたことをここに記して感謝の気持ちとしたい。



調査地位置図（S＝1：15,000）

トレンチ配置図（S＝1：3,000）

3　調査概要

調査は対象地内に25箇所のトレンチを設定したが、ほ場整備のための調査であること、来年度も耕作することを踏まえ、2×2ｍの規模で人力により深さ1ｍを目途に掘削、記録作成の後埋戻した。調査はトレンチの土層観察を中心に状況を記録した。

ほとんどの調査トレンチで、沼沢地のような粘土質の土層や旧河川を思わせる砂層の堆積や洪水砂もみられ、安定した面や良好な遺物包含層を持つ地点はわずかであった。

北西部の近鉄沿いの高所周辺、1～5・10・11トレンチでは、南の低所は粘土層の続く地点であったが、高所である1・2トレンチから安定した面がみつかっている。特に2トレンチには、地表下0.7ｍの深さに黒灰色土の混じった黄灰色粘質土の堅い層があり、黒褐色粘土の入った南北方向の溝がみつかった。溝は幅約0.5～0.8ｍ、深さ約0.2～0.3ｍ、北からやや東に偏きつつ南に流れる。内部から遺物はみつかっていないため時期はわからない。またこれより一段低い10トレンチからは地表下約1.1ｍで遺物包含層がみつかり、古墳時代の土師器の小片が多く含まれていた。

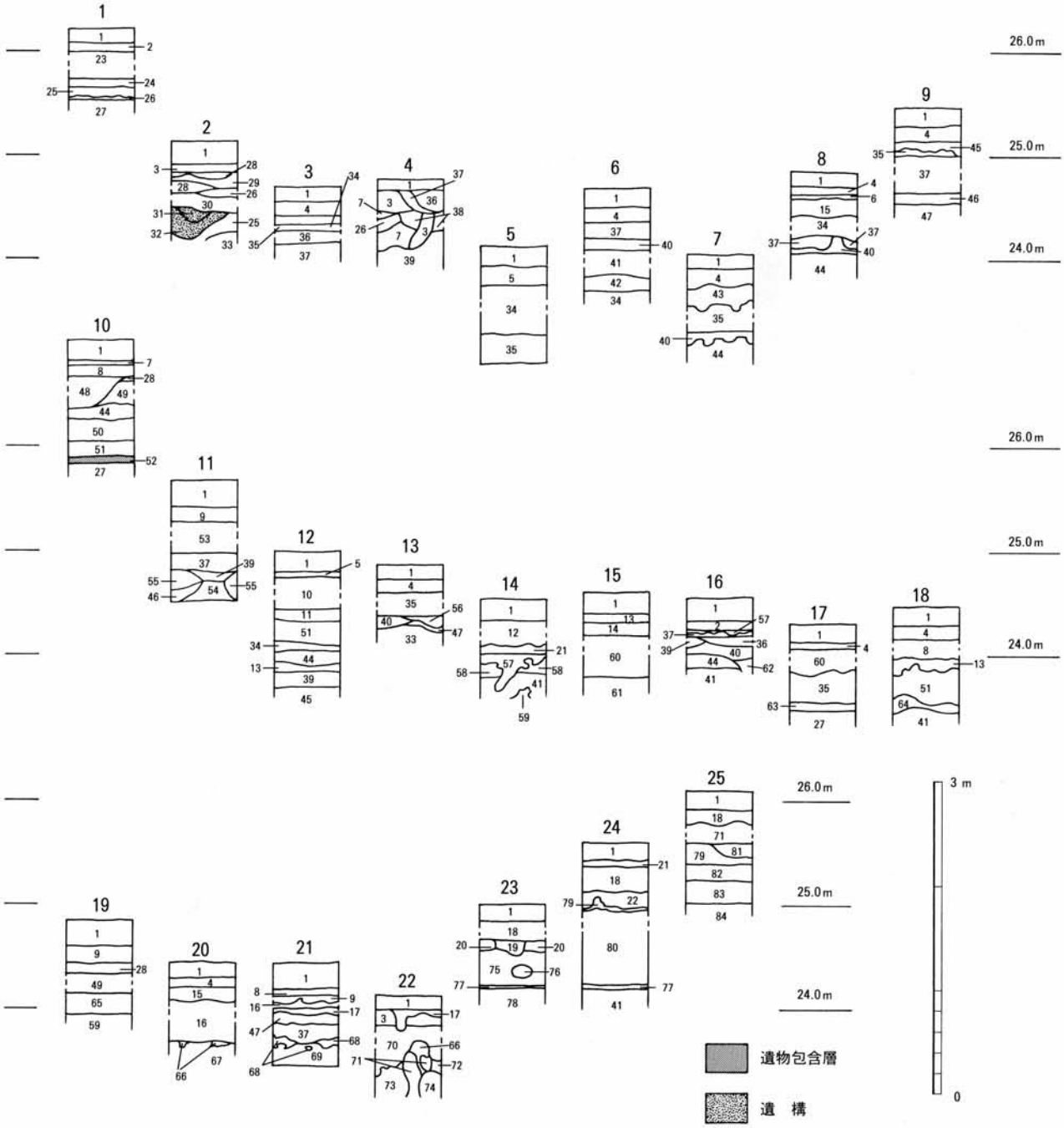
1トレンチ（南東から）

2トレンチ（北から）

南西部の6～9・13・14、中央部12・15・17～20トレンチでは耕作土以下暗灰色や青灰色の粘土質の層が続き、その多くに層間に砂層が薄くはさまっていた。6トレンチでは遺物がその界面からみつかったほかは、良好な遺物包含層はみつかっていない。13・19トレンチでは下層に砂層が続き、特に19トレンチでは湧水が著しい。また17・18トレンチでは、下層の粘土層中に開いていない松かさが多く含まれていた。

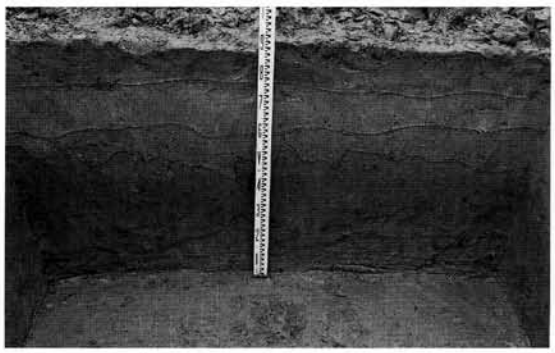
北部16トレンチは遠藤川堤防の裾で、その影響のため砂礫層が続き、湧水が激しい。

東部木津川堤防西側に沿った21・22トレンチでは、耕作土以下にキメの細かい砂層が続き、ある時期木津川の流路であったことがうかがえる。22トレンチでは壁面に噴砂がみられ、木津川が増水の折に地下から水が噴き上がったことがわかる。南東端調査地の23～25トレンチ周辺は一段高くなり、多くが畑地になっている。ここでは耕作土から砂層が続き、25トレンチで0.8ｍの深さに堅い砂礫層があった以外は砂層が続いている。

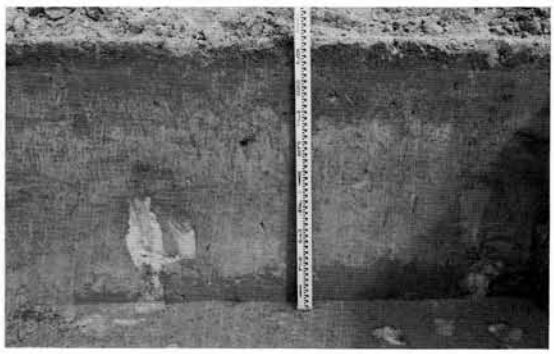


1. 耕作土
2. 黒色粘性砂
3. 灰色砂質土
4. 黒灰色粘質土
5. 黒灰色粘土
6. 灰色砂質土（小礫まじり）
7. 灰色土
8. 黄灰色粘質土
9. 灰色砂質土（黄色粘土まじり）
10. 灰黄色粘土
11. 黄褐色粘土（粗砂まじり）
12. 暗褐灰色粘土（砂まじり）
13. 灰色粘質土
14. 灰黄色粘質土（小礫まじり）
15. 淡褐色粘質土
16. 灰色粘質土（褐色砂まじり）
17. 褐色砂質土
18. 茶褐色砂質土（小礫まじり）
19. 茶褐色砂質土（白色砂まじり）
20. 白色砂
21. 黒褐色砂
22. 茶褐色砂
23. 暗灰黄色粘土（砂まじり）
24. 暗灰黄色砂質土
25. 黄灰色粘質土（黒灰色粘質土ブロックまじり）
26. 灰黄色砂質土
27. 灰青色粘性細砂
28. 灰褐色砂質土
29. 黄灰褐色粘質土
30. 灰褐色砂質土（黒色粘土ブロックまじり）
31. 淡褐色灰色砂質土
32. 黒褐色粘質土（黄色粘土ブロックまじり）
33. 灰青色粗砂
34. 暗灰色粘土
35. 暗灰色粘土（砂まじり）
36. 暗灰色砂質土（灰色砂まじり）
37. 暗灰色砂質土
38. 褐色砂礫
39. 灰色粗砂
40. 灰色砂
41. 青灰色粘土
42. 黒色粘土
43. 褐灰色粘土（黄色砂まじり）
44. 灰色粘土
45. 青灰色細砂
46. 黒灰色砂質土
47. 暗灰色砂
48. 黄灰色砂・灰色砂礫互層
49. 褐灰色砂質土（灰色砂まじり）
50. 灰色粗砂（灰色粘土まじり）
51. 暗灰色粘質土
52. 黒色砂質土
53. 灰色砂・灰色粗砂互層
54. 灰色砂礫
55. 黒灰色粘質土（砂まじり）
56. 暗灰色粗砂
57. 黄色粗砂
58. 青灰色粘土（黄色粗砂まじり）
59. 青灰色砂
60. 暗青灰色砂質土
61. 暗灰色粘質土（砂まじり）
62. 灰色礫
63. 暗褐灰色粘性細砂
64. 暗灰色粘土（青灰色粘土まじり）
65. 淡褐色砂
66. 褐色砂
67. 灰色粘土（黒色粘土ブロックまじり）
68. 黄灰色砂
69. 暗灰色粘性細砂
70. 青灰色粘性細砂
71. 白褐色砂
72. 暗黄灰色砂
73. 褐色細砂
74. 褐灰色粘性細砂
75. 灰色細砂・黄灰色砂縞層
76. 淡灰褐色粘土ブロック
77. 茶褐色粘質土
78. 暗青灰色粘質土（砂まじり）
79. 淡灰褐色砂礫
80. 灰黄色砂・褐色砂・青灰色砂縞層
81. 黒褐色砂（淡褐色砂まじり）
82. 淡灰褐色砂
83. 黒褐色粗砂（灰色粗砂礫まじり）
84. 灰褐色砂礫

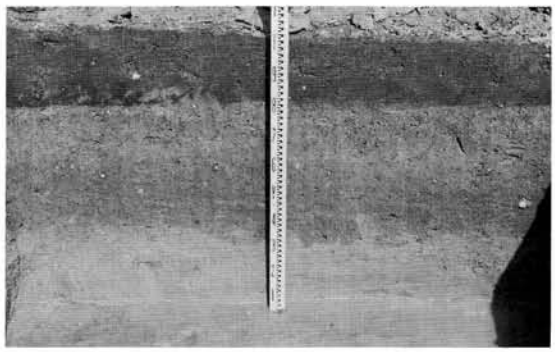
トレンチ土層略図（上の数字がトレンチ名）



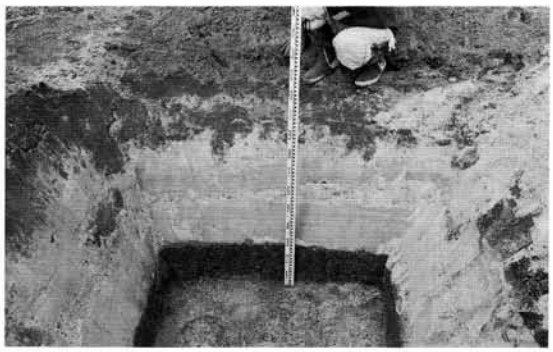
18トレンチ



22トレンチ



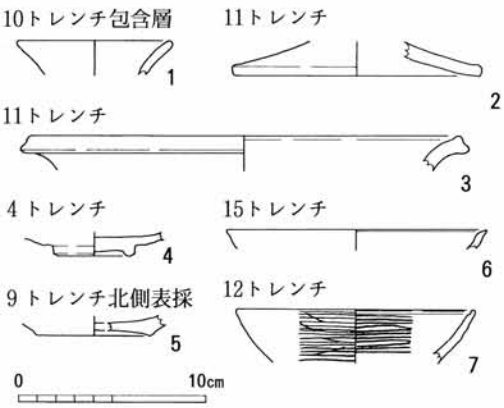
8 トレンチ



25トレンチ

4．遺　　物

今回の調査でみつかった遺物は、25箇所のトレンチからすると量的に少なく、整理箱1箱に満たない。種類としては、土師器・須恵器・瓦器・磁器・陶器などで、時代的には古墳時代から近世までのものがみられるが、小片が多く図化できたものは少ない。



遺物実測図

1は10トレンチの遺物包含層からみつかったミニチュアの土師器カメ。古墳時代前期。

2は11トレンチからみつかった土師器の高杯脚部。1と同じ古墳時代前期。

3は11トレンチからみつかった須恵器のカメ口縁部。奈良時代か。

4は4トレンチからみつかった中国製の白磁皿。内面は淡灰緑白色の釉が施され、外面は露胎部がほとんどである。鎌倉時代（14世紀）。

5も中国製の白磁皿で、9トレンチの北側での表採品である。内面は淡緑灰色の釉が施され、外面は露胎である。平安時代末～鎌倉時代。

6は15トレンチからみつかった瓦器椀。表面磨滅のためミガキはみえない。鎌倉時代。

7は12トレンチからみつかった瓦器椀。内外面とも密にミガキが施される。鎌倉時代。

調査地近景（南から）

5．まとめ

今回の調査地は、これまで調査が行われていない市南東部の木津川沿いの水田地帯であり、広い範囲を点々で探る調査となった。

遺構が広がっている可能性のある安定面を持つ場所は、北西部の高所でみつかった。調査地西側の近鉄車庫建設に伴う調査でみつかった遺構面が続く可能性も考えられる。

中央部や南部一帯の地下には粘土層が広がっていることがわかり、現在のような耕作地になる前には沼沢地や湿地であったことがわかった。多くの調査地では、粘土層の間に砂が堆積している層があり、木津川の氾濫による洪水の痕跡であると考えている。

東側堤防沿いの調査地の地下には砂層が広がり、現在の地形図にも表されるとおり、一時期木津川の流路であったことがわかった。

地形図をみると、遠藤川以北や精華町側、調査地内でも西部分では条里地割が認められるのに対し、調査地内の他の場所では、乱れた地割となっている。今回の調査でもこのことが裏付けられるような結果となったわけである。

調査中、近隣の農家の方々にお世話になった。その時聞いた話のいくつかを紹介する。

調査地内の清水と呼ばれる地区は、「地下水が豊富ですぐに水が湧いた。今でも地盤がゆるく、機械がはまって動けなくなることがよくある。」

堤防沿いの地域では、「木津川の増水時には水が激しく湧きだし、あたり一帯が池のようになった。」

「字古垣内には昔集落があったが災害からのがれるため、より西の高所に移った。」

「遠藤川の河口付近（16トレンチ西側とも）には、昔神社があった。それが水害を避けて西の丘陵に遷ったのが今の佐牙神社である。」

「南東の精華町界が一段高くなっているのは、堤防が決壊して流れ込んだ土砂を積み上げた為である。」など、調査内容にもみられることが多く、江津の人々の永い水との戦いの歴史を物語っている。

平成13年３月30日　印刷
平成13年３月30日　発行

江津ほ場整備計画地内試掘調査概報
（京田辺市埋蔵文化財調査報告書第32集）

編集・発行　京田辺市教育委員会
〒610-0393 京都府京田辺市田辺80番地
電話　0774－62－9550

印　　刷　明新印刷株式会社
〒630-8141 奈良市南京終町３丁目464番地
電話　0742－63－0661

（表　紙　南東からみた調査地）
（裏表紙　遠藤川堤防からみた調査地）

江津ほ場整備計画地内試掘調査概報（京田辺市埋蔵文化財調査報告書　第32集）

京田辺市教育委員会